資料１

川崎市の将来人口推計について

川崎市では、総合計画の策定の基礎的条件として 2030 年までの将来人口推計を行いました。推計の前提条件と推計結果は、以下に示すとおりです。

１．将来推計の前提条件

(1) 推計手法

人口推計の最も代表的な手法である「コーホート要因法」を用いています。この推計手法は、男女別５歳階級（例えば、0～5 歳）を一つの集団とみなし、各年の仮定された出生率から出生数を推計し、５年間の死亡率、移動率（転出入）から、この集団が５年後に何人になっているかを推計するものです。

2000 年までの国勢調査による区別の男女別５歳階級別人口を基本に推計を行いましたが、最近の人口動向を反映させるため、住民基本台帳及び外国人登録人口の増減を加減した 2003 年 10 月までの区別人口を参考にしています。また、近年及び今後の住宅開発等の動向も考慮し推計しています。

(2) 仮定値の設定

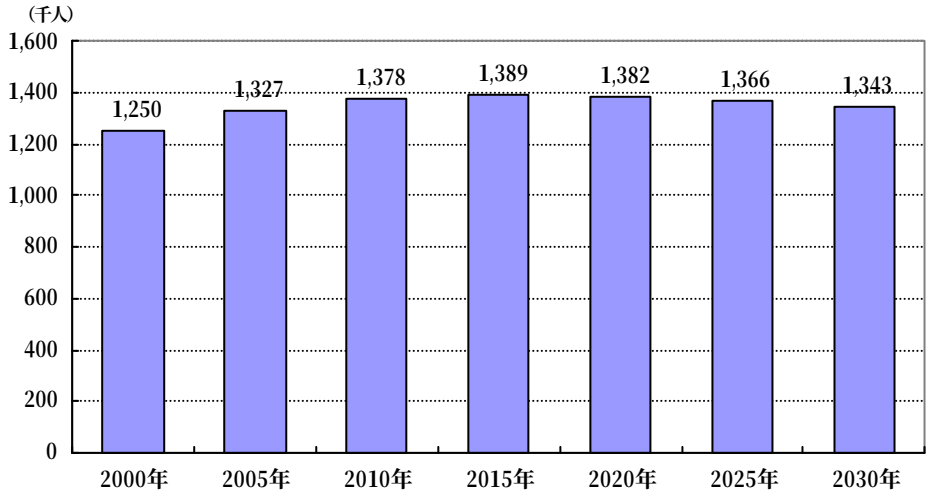
将来人口の推計に必要となる出生率の仮定値は、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」（平成 14 年３月推計）を基準に設定しました。また、死亡率は川崎市の生命表、移動率は過去の実績値を参考に設定しています。

２．推計結果の概要

(1) 総人口の見通し

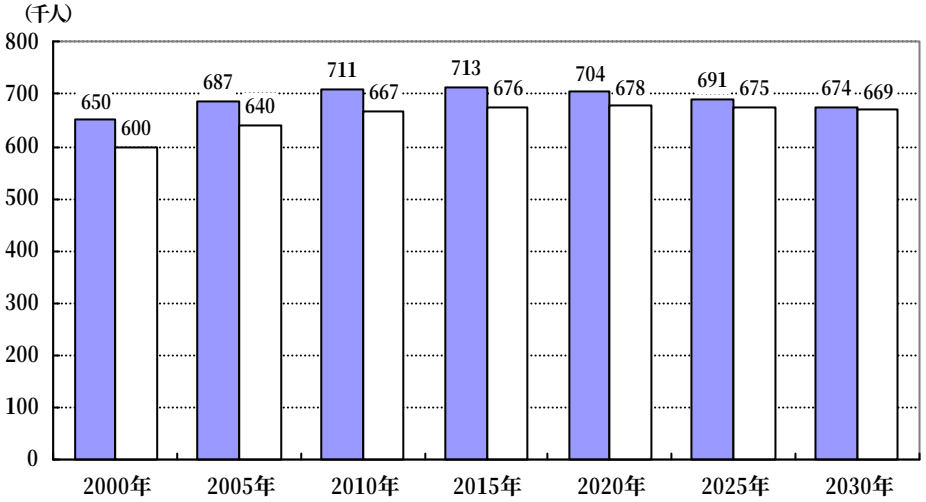
2000 年に 125 万人であった川崎市の総人口は、2005 年には 132.7 万人、2010 年には 137.8 万人まで増加することが見込まれます。その後は、2015 年に 138.9 万人まで増加した後、ゆるやかに減少していくものと予想されます。

図表１　総人口の見通し



(2) 男女別人口の見通し

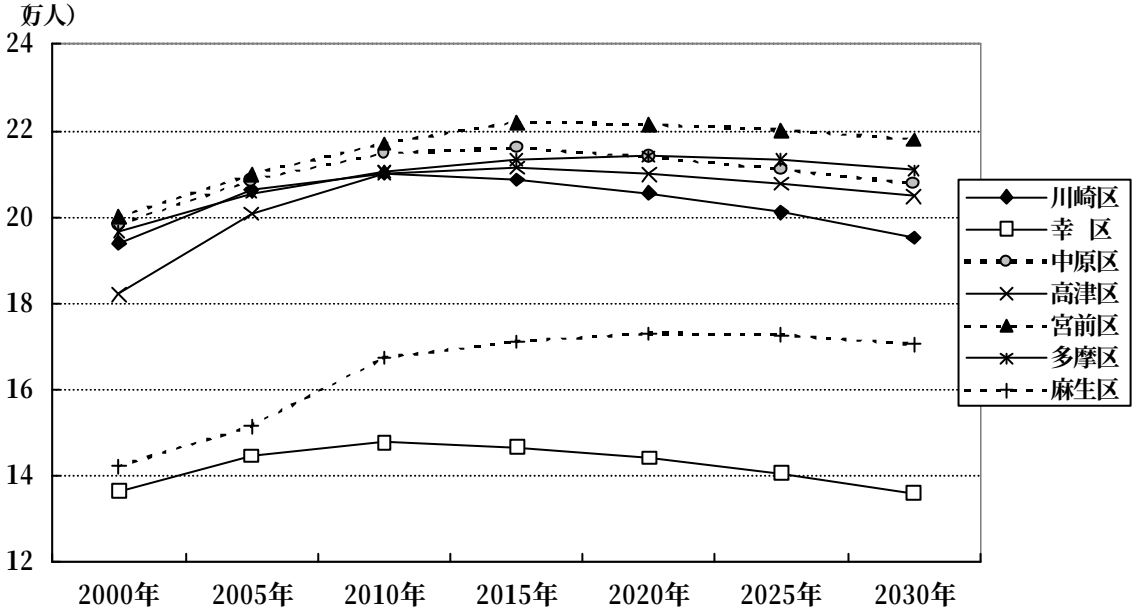
図表２　男女別人口の見通し（左：男性、右：女性）



(3) 区別人口の見通し

2010 年までの間に比較的高い人口増加が見込まれますが、いずれの区も 2010～2020 年の間に総人口がピークを迎え、その後は緩やかに減少していくものと予想されます。

図表３　区別人口の見通し



総人口と各区別人口　　(単位 :万人)

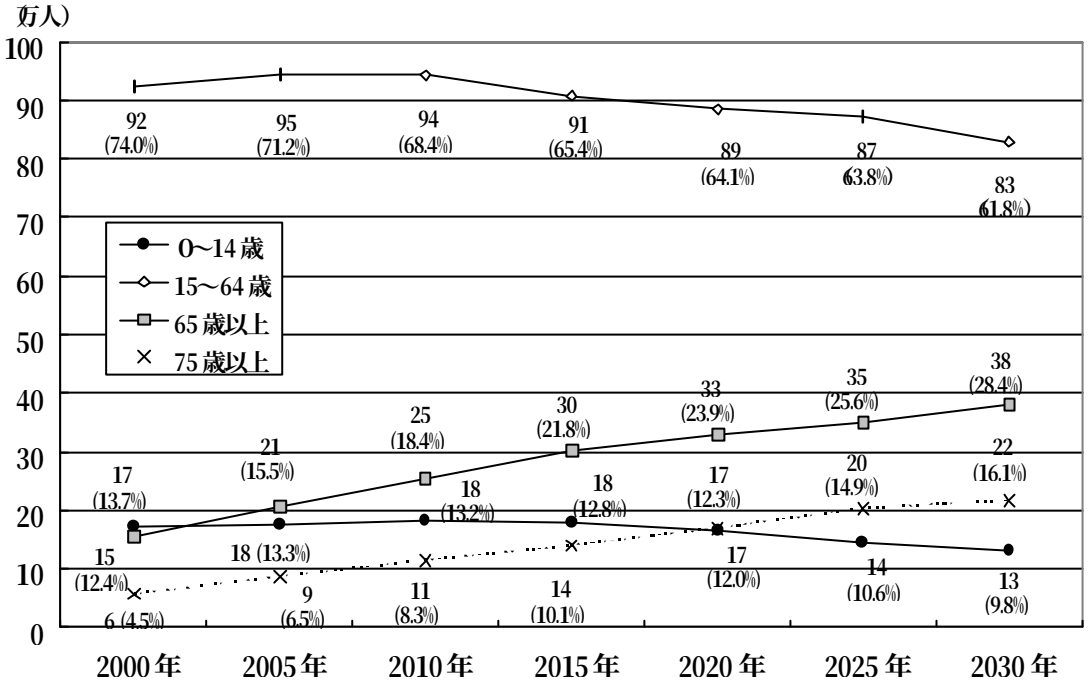
	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
川崎市	125.0	132.7	137.8	138.9	138.2	136.6	134.3
川崎区	19.4	20.6	21.0	20.9	20.6	20.1	19.5
幸　区	13.6	14.5	14.8	14.7	14.4	14.1	13.6
中原区	19.8	20.9	21.5	21.6	21.4	21.1	20.8
高津区	18.2	20.1	21.0	21.1	21.0	20.8	20.5
宮前区	20.0	21.0	21.7	22.2	22.1	22.0	21.8
多摩区	19.7	20.6	21.0	21.3	21.4	21.3	21.1
麻生区	14.2	15.2	16.7	17.1	17.3	17.3	17.0

（注）全市の推計結果と各区の推計結果の合計は端数処理の関係で必ずしも一致しない。

(4)　年齢別人口の見通し

2000 年の川崎市の年齢３区分別の人口比率は、年少人口（０～14 歳）が 13.7%、生産年齢人口（15～64 歳）が 74.0%、老年人口（65 歳以上）が 12.4%です。今後は、年少人口及び生産年齢人口が減少傾向にある一方で、高齢者の人口が増加し、2015 年には、年少人口が 12.8%、生産年齢人口が 65.4%、老年人口が 21.8%となる見込みです。

図表４　年齢別人口の見通し



(注) (　)内は各年の総人口に対する構成比。